

2020年 4月 30日

## 特別研修終了届兼報告書

所 属 国際交流学部  
職 位 教授  
報告者 佐藤 輝

私は、2019年度大学教員特別研修員として学外研究に就いておりましたが、以下のとおり終了いたしました。

つきましては、「フェリス女学院大学教員特別研修制度に関する規程」(2000年5月22日制定)第11条第2項の規定に基づき、研修成果に関する報告書を提出いたします。

### 1. 研修テーマ・研修先等

研修テーマ	ヨーロッパと日本のグリーンツーリズム現場比較調査 —特にイタリアの地域毎の推進状況の分析と有効な支援策の検証—
研修先 (国・都市・研究機関等)	イタリア共和国(11月のロンバルディア州、ウンブリア州、トスカーナ州、プーリア州、および2月のエミリア=ロマーニャ州)
研修先指導者 (不在の場合は記入不要)	
研修先及び指導者 選定理由	グリーンツーリズム先進地の欧州の中でも農業・観光振興の研究対象としてイタリアの政策・動向は日本の参考になると考えられたため。

### 2. 研修日程

日程	渡航先・滞在地	研究機関名	備考
11月 6日 ～ 11月 19日	ミラノ、ペルージャ、フイレンツェ、バーリ	各州庁、ツーリズムモ・ヴェルデ協会、各農家民宿	
2月 22日 ～ 3月 4日	ロマーニャ地方	EARTH アカデミー(ファッジョーリ農場)	
月 日 ～ 月 日			
月 日 ～ 月 日			

#### 【在外研修の場合のみ記入】

帰国日 年 月 日

### 3. 研修報告

(1) 実施概要：研修内容を具体的に記載してください。

2019年度からタイミング良く JSPS 科研費・基盤研究（C）に採択された（イタリアの農村ツーリズムにおける地域毎の推進状況の分析と有効な支援策の検証、課題番号：JP19K12564、研究代表者：佐藤輝）。4月～7月にグリーンツーリズム（以下 GT と略す）の統計的な新規の地域分析指標の開発に着手し、イタリア国立統計研究所等のデータを分析した。6月～10月に訪問先の選定、事前の資料調査、イタリア各地の通訳者4名とインタビュー調査先の調整（4州庁、GT 農家3軒、協会1部署等）をおこなった。11月中旬の現地調査では予定どおり上記4州を訪れ、GT 農家の支援のための重層的な体制と、各州法による GT 産業の監督・特長づけの関連性、さらにインターネットによる広報面において新たに学術的な知見を数多く得ることができた。

一方、欧州の環境 NGO「EARTH アカデミー」会長ファウスト・ファッジョーリ氏と中央大学法学部教授の工藤裕子氏の指導のもと、エミリア＝ロマーニャ州内の地産地消とスローフード運動のネットワークに関する研修・現地視察には2020年2月下旬に個人研究として参加することができた（GT 農家3軒、3市役所、2博物館、ワイナリー3軒、食品店3軒等の計21ヶ所を訪問し、インタビュー調査）。農家、企業、行政等のネットワークによって地域活性化の具体策が実施され、日本の農村振興にもおおいに参考となる多角的な取り組みを把握することができた。このための事前調査・調整については2019年10月～2020年2月におこなった。

なお、特別研究計画書では8月に現地渡航と記述していたが、バカンス期間中のため日程調整が難しかったため断念し、11月と2月の各2週間ずつに分け、研究の焦点に応じた計画へと変更することになったのでご容赦いただきたい。当初は渡英も想定したが事前の地域分析の結果、同国では GT が停滞・後退していることが判明したため渡航せず、イタリアの研究に専念した。この点も計画どおりには進めることができなかった。イタリア語の修得については、いくつかの入門書を学習し、基礎的な文法と会話の知識を駆使して、現地で応用範囲を広げることができた。

(2) 研修成果及び今後の進展の見込みについて記載してください。

上記のイタリアでの研修成果として学術論文1本、学会発表2回、セミナー招待講演2回、日本での活動実績として農業体験ツアー開催2回等を残すことができ、主要な成果を社会に還元しつつある。さらにこれらに基づいた GT 推進のための提言が横浜市環境創造局の政策・事業にも今後、反映される予定であり、この連携協定下での環境教育活動を継続していく。JSPS 科研費の2年目、3年目に向けて地産地消のサプライチェーン支援、および GT の中間支援組織による格付け制度が新たな研究課題として浮かび上がってきたため、この調査先の選定・調整に取りかかっている（新型コロナウイルスの影響を鑑みて、通訳者とともに慎重に渡航時期を検討中である）。

このテーマに関連して、日本環境学会の有志3名でサステイナブル社会研究会を立ち上げ、勉強会を3回開き、資料を執筆した。また、同学会の横浜国立大学での研究発表会（6月22日、23日）実行委員会メンバーとしてプログラム作成、予稿集の編集、当日の会場運営を主導した。

教育面として CLA 科目「プロジェクト演習」（山梨県道志村の地域活性化）では、イタリアの事例を受講生とも共有し、行政への提案内容に生かしてもらい見込みとなっている。将来的には欧州の GT 先進国であるフランスやドイツにも研究範囲を広げつつ、今後、イタリアでの現地実習科目を開講できるかどうかの可能性を探究し、国際交流学部・人間環境プログラムにおける観光学方面的教育内容のさらなる充実化・多様化を図りたい。

これまでのインドネシア共和国での熱帯林保全に向けた研究成果の一端についても本研修期間中に取りまとめることができ、学術論文1本、学会発表1回につながった。これらの実績に基づく国際交流学部専門科目「海外エコツーリズム実習」の第2回目を2021年度後期に開講予定であり、ジャワ島の山間部での GT 体験プログラムの改善等に役立てていく所存である。

また、キリバス共和国での研究・現地実習の一環である「キリバス応援プロジェクト」が、学生課の2019年度フェリス・チャレンジ制度に採用され、パンの実チップスの現地生産とフェアトレード等を試みた。これに関しても学生らと事業化に向けて、ひきつづき尽力していく。

#### 4. 研修成果物

研修成果物(著書・学術論文・研究発表・演奏会等 予定も含む)について、発表時期等含めて記載してください。

##### 学術論文

- ①佐藤輝・久野真希子・矢田誠・仲摩栄一郎 (2020)「インドネシア産サトウヤシ砂糖の化学的組成と GI 値の特徴」『人間と環境』第 46 巻 1 号、18～23 ページ
- ②佐藤輝 (2020)「イタリアのアグリツーリズムの 2000 年以降における地域毎の推進状況分析と全国的な支援組織の活動把握」『人間と環境』第 46 巻 3 号、印刷中

##### 資料

- ①佐藤輝 (2020)「行政・企業等と連携した大学のエコキャンパス活動の挑戦と SDGs」『人間と環境』第 46 巻 3 号、印刷中

##### 研究発表

- ①佐藤輝「イタリアの農村ツーリズムにおける 2000 年以降の地域毎の推進状況と人口増減の分析」第 45 回日本環境学会研究発表会、横浜国立大学 2019 年 6 月 22 日 (土)
- ②佐藤輝「インドネシアの熱帯林における「エコツーリズム実習」の実施、および参加した大学生の反応」第 45 回日本環境学会研究発表会、横浜国立大学 2019 年 6 月 23 日 (日)
- ③佐藤輝「イタリアのアグリツーリズム農家に対する州庁や農業団体による支援策の特徴」第 46 回日本環境学会研究発表会、立命館大学 2020 年 6 月 27 日 (土) → コロナ禍によって会場での開催は中止だが、予稿集を発行し、発表に替える措置となった。

##### セミナー招待講演

- ①佐藤輝「イタリアの農家民宿を取り巻く状況や農家への支援体制の概要」神奈川県令和元年度農泊推進対策事業・農泊セミナー、神奈川県庁小田原合同庁舎 2020 年 2 月 5 日 (水)
- ②佐藤輝「エコキャンパスをつうじた地域連携とイタリア農泊事例研究」横浜市環境創造局研修会「大学から見た横浜の農業の魅力 ～農と大学連携～」、関内中央ビル 2020 年 2 月 19 日 (水)

##### 農業体験ツアー開催

- ①親子横浜農業探検隊、横山四季彩園、相澤良牧場等 2019 年 10 月 5 日 (土)
- ②横浜市内の留学生対象ツアー、門倉農園ユアーズガーデン 2019 年 11 月 23 日 (土)
- ③親子横浜農業探検隊、横浜あさひブルーベリーの森、2020 年 8 月 29 日 (土) 予定

##### 地域情報誌掲載

- ①『はまふうどナビ』横浜市環境創造局 Vol. 53 (2020 年 2 月) 3 ページ目
- ②『Yokohama みどりアップ Action』市民推進会議 Vol. 2 (2020 年 2 月) 2 ページ目